

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	プロジェクト2 (Project 2)	授業コード	L120201
担当教員名	杉浦 嘉雄、池畑 義人、吉村充功、高見大介	科目ナンバリングコード	L212
配当学年	2	開講期	通年
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	関心のある学生なら誰でも歓迎します。		
受講心得	この分野の知識・技術を積極的に学ぶには、仲間とともに実際に体験することが最も有効な学びの手段です。自然豊かな九重町をフィールドにした多彩な環境保全プログラムに積極的に参加して下さい。		
教科書	教科書の指定なし(ただし、毎回ワークシート等を配布。「参考文献」参照。)		
参考文献及び指定図書	『ビオトープ管理士資格試験 公式テキスト(日本生態系協会編集、日本能率協会マネジメントセンター、2940円)』『絵でわかる生態系のしくみ(鷲谷いづみ著、講談社サイエンティフィック、2000円)』		
関連科目	プロジェクト1 森里海連環学と地球的課題 流域生態論 環境計画論 ランドスケープ		

授業の目的	本講座では、①環境に配慮した方法や課題を学ぶこと、②そこで学んだ環境保全活動を実際に体験し感性を身につけることを到達目標とします。 この目標を達成するために、次のテーマの体験や学びを計画しています。
授業の概要	上記目的①については本学の教室内で実践します。②については、本学と提携している一般財団法人セブン-イレブン記念財団の傘下組織「九重ふるさと自然学校」の野外フィールドで受講生全員が学ぶ「全体プログラム」と希望者が学ぶ「選択プログラム」を実践することで、各目的が達成できる構成です。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：オリエンテーション ①授業の目的、②授業の概要、③環境ボランティアの基礎知識と意義について解説する。その上で、質疑応答や準備のためのワークショップを行う。	次週につながる予習(図書館やHPIによる事前検索作業)
第2週：全体プログラムについて ①「九重ふるさと自然学校」について、②「全体プログラム」計画を学生自身が作成するためのフィールド環境や背景について解説する。その上で、質疑応答や準備のためのワークショップを行う。	次週につながる予習(図書館やHPIによる事前検索作業)
第3週：全体プログラム(ワークキャンプ)の目的、計画作成 「九重ふるさと自然学校」にとって実際に必要なボランティア活動として、学生たちが全体プログラムの作成を行う。その時の食事の献立決定や食材準備、実際の食事づくりも学生が行う。	次週につながる予習(図書館やHPIによる事前検索作業)
第4週：選択プログラムについて 「九重ふるさと自然学校」が主催する「選択プログラム」の詳細について解説する。その上で、質疑応答や準備のためのワークショップを行う。	次週につながる予習(図書館やHPIによる事前検索作業)
第5週：全体プログラム<参加と環境保全活動の実践>【6-1】(2日間で6時間分) 九重町における1泊2日の自然環境の保全・再生に関する実質10時間以上の実践プログラムの実施。指導者は「九重ふるさと自然学校」のスタッフや本学教員など。授業6時間分の換算	演習による体験学習
第6週：全体プログラム<参加と環境保全活動の実践>【6-2】	演習による体験学習
第7週：全体プログラム<参加と環境保全活動の実践>【6-3】	演習による体験学習

第8週：全体プログラム＜参加と環境保全活動の実践＞【6-4】	演習による体験学習	
第9週：全体プログラム＜参加と環境保全活動の実践＞【6-5】	演習による体験学習	
第10週：全体プログラム＜参加と環境保全活動の実践＞【6-6】	演習による体験学習	
第11週：選択プログラム＜参加と環境保全活動の実践＞【4-1】(2選択で4時間分) 九重町における自然環境の保全・再生に関する日帰り(実質4時間以上)の選択プログラムの実施。選択プログラム1つで授業2時間分の換算。受講生は4つのうち2つ(4時間分)を選択。	演習による体験学習	
第12週：選択プログラム＜参加と環境保全活動の実践＞【4-2】	演習による体験学習	
第13週：選択プログラム＜参加と環境保全活動の実践＞【4-3】	演習による体験学習	
第14週：選択プログラム＜参加と環境保全活動の実践＞【4-4】	演習による体験学習	
第15週：ふりかえりと分かち合い ふりかえりと分かち合いをする。まとめと「課題レポート」の解説。	まとめに代える。	
第16週：		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリ I :ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考	「九重ふるさと自然学校」スタッフ陣も協働指導者となっています。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	①環境保全・再生活動に興味を持つ。
【知識・理解】	②自然環境や生態系を理解し、環境保全に関する知識を身につける。 ③生物多様性および生態系の基本を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	④環境保全や再生に関する基本的な技術を身につける。 ⑤生物多様性や生態系の理解に必要な技術の基本を習得する。
【思考・判断・創造】	⑥実践した生物多様性の保全・再生について生態学の基礎的な知識を使って説明ができる。 ⑦実践したビオトープの保全や再生について生態学の基礎的な知識を使って説明ができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点		

【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			10点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		60点	
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>			

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	「課題レポート」および「自主レポート」が、自分の実践を客観的かつ分かりやすく伝えていること。その意義も明確に述べていること。
発表・その他 (無形成果)	「全体プログラム」および「選択プログラム」の学びの姿勢や発言が、現地スタッフの客観的な立場からも良く感じ取ることができること。